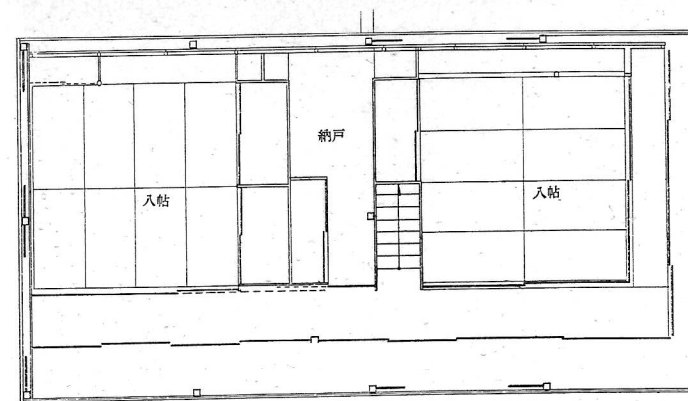




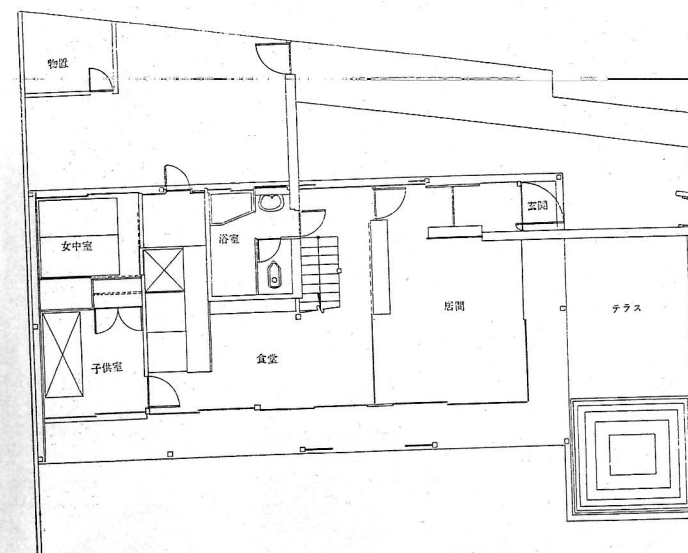
南面 South side view 鉄部は全てアルペストリーヒング仕上 右側の塀は煉瓦積みその裏は門から玄関へのアプローチ

Photos : Ch. Hirayama



2階平面図

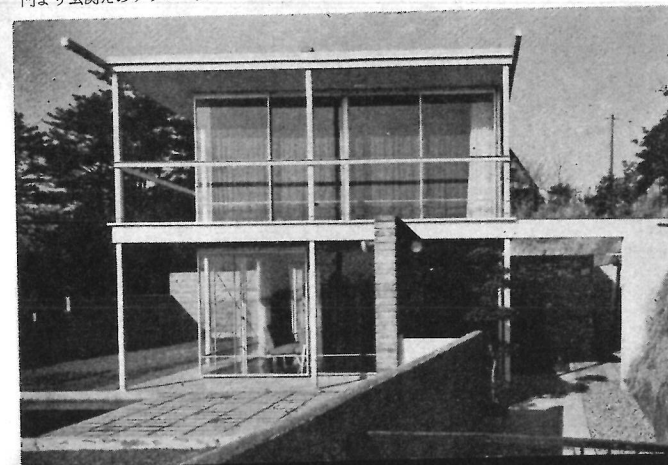
2nd floor pl



1階平面図

1st floor pl

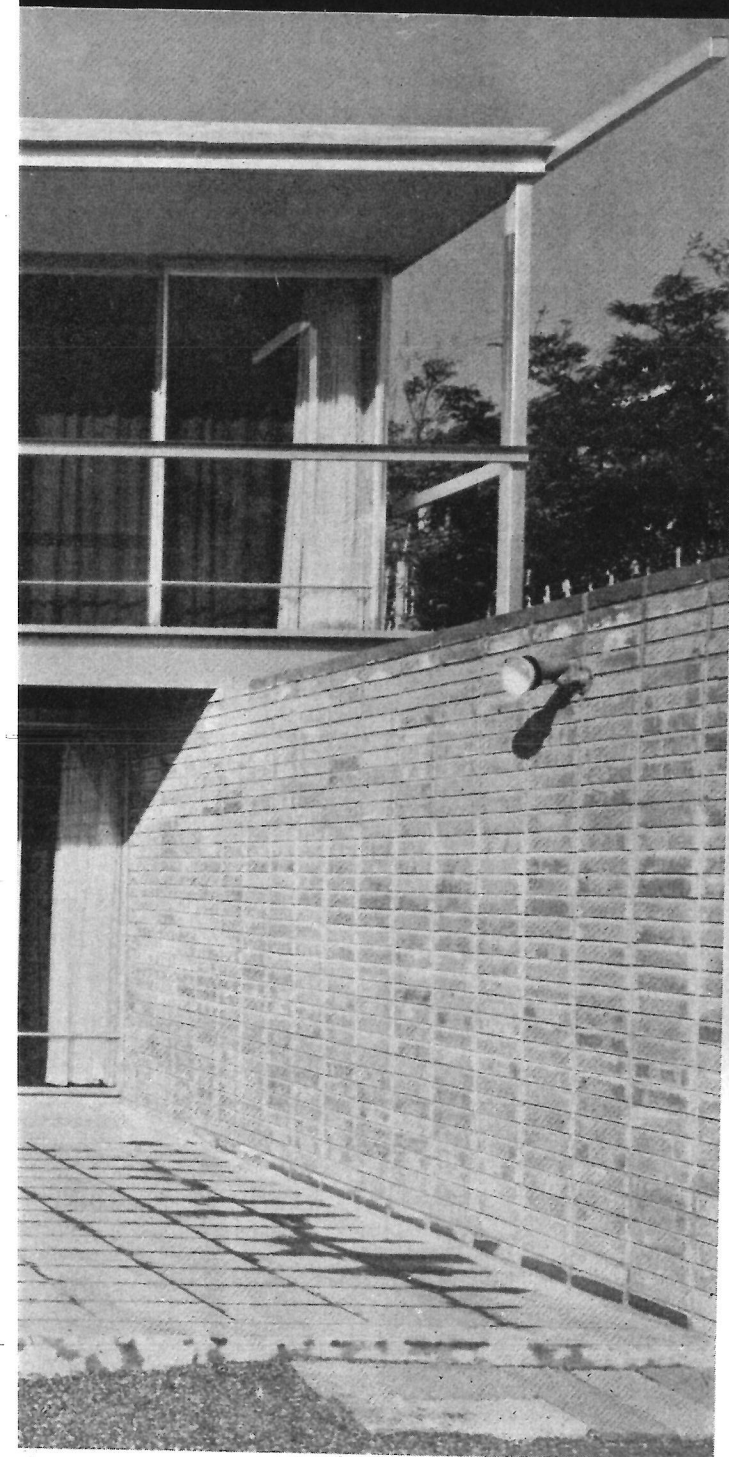
門より玄関へのアプローチ



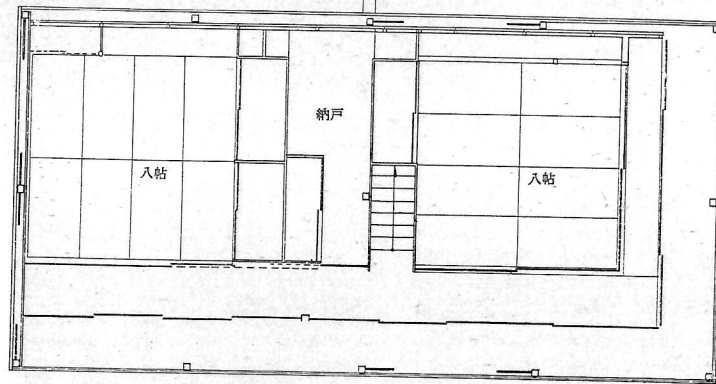
SH - 27

—東京 日吉—

設計 広瀬謙二建築技術研究所 施工 新和建設株式会社 鉄骨 鼎製作所 サツシュ 福岡工業株式会社

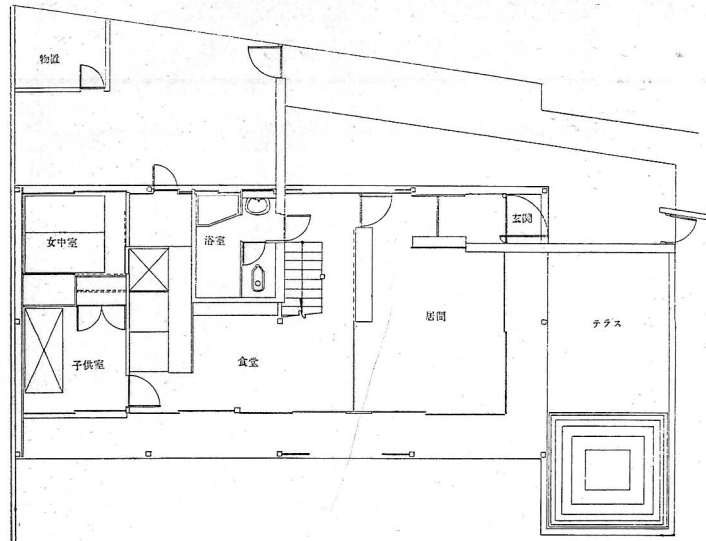


Photos : Ch. Hirayama



2階平面図

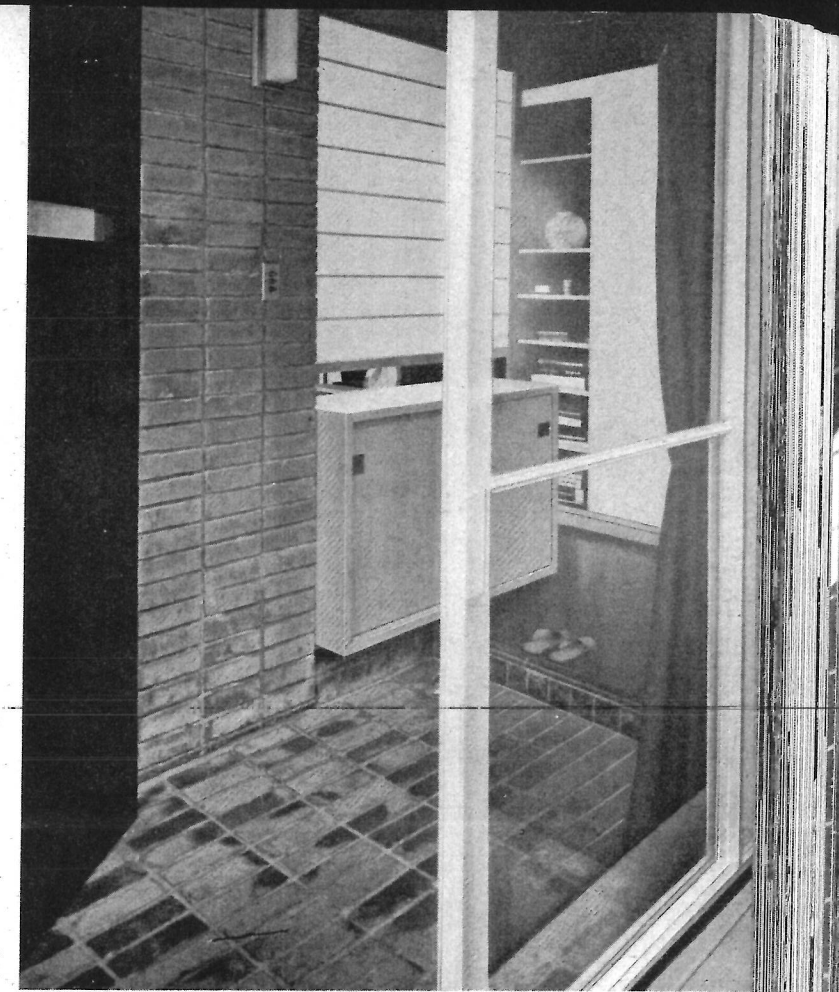
2nd floor plan



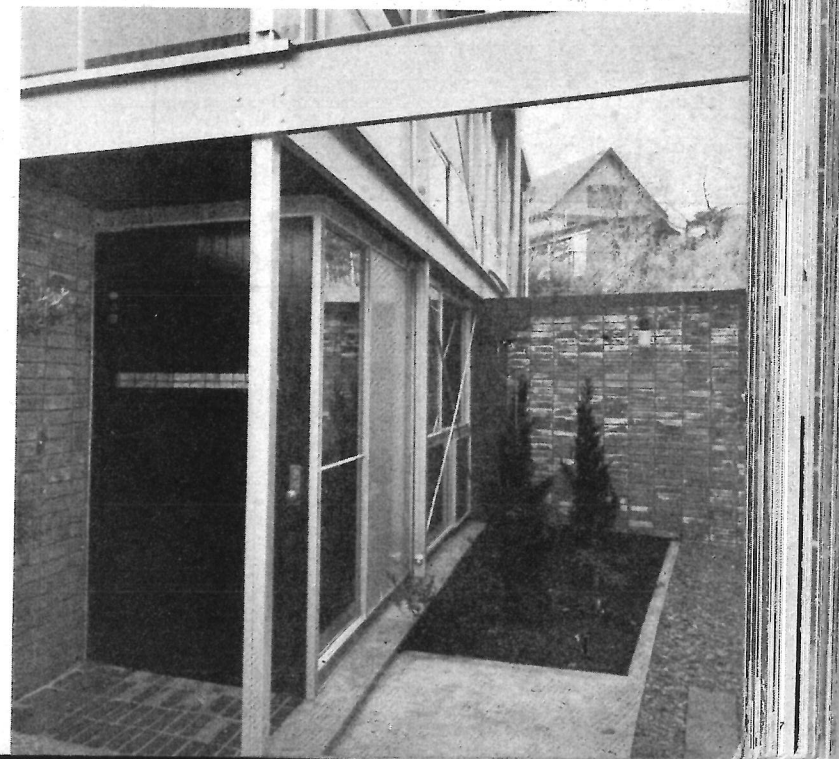
1階平面図

1st floor plan

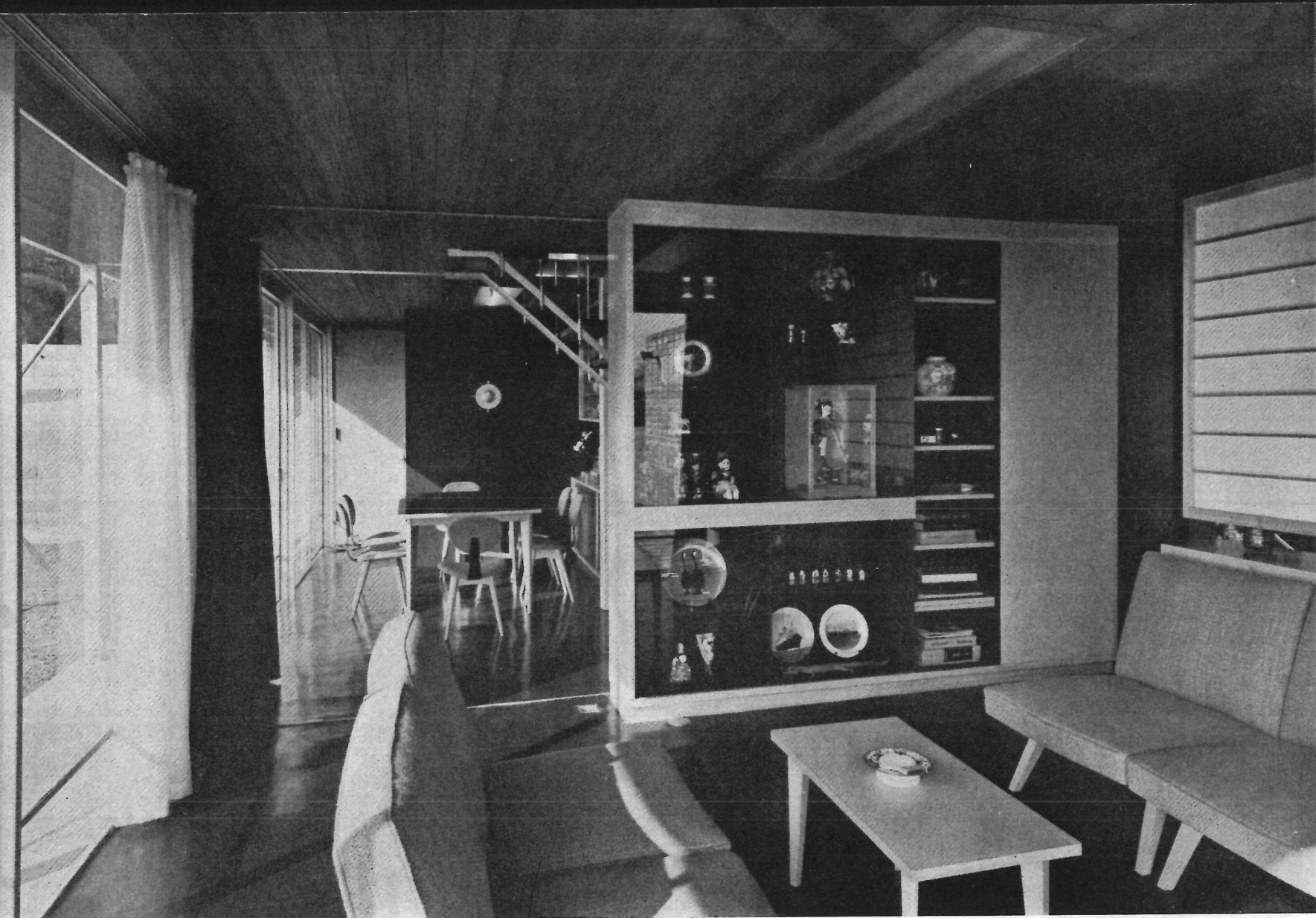
門より玄関へのアプローチ



玄関 障子の下は下駄箱その奥は居間 左は煉瓦平敷



玄関と裏庭 正面の煉瓦塀の裏はサービスヤード



居間より1階の各室見越し Every room on 1st floor view from living room 食堂 居間の間仕切は襖で引き開けられる 飾り戸棚の裏は階段室 右側の障子の裏は玄関。

この家は 東横線日吉駅から北え 慶応のグラウンド近くにある。

家族は主人夫妻と小学校へ行っている子供一人の小人数で 当主は海上勤務をされていた関係から 鉄の構造には理解を持って受け入れて戴けた。同時に2階の部屋を全部畳敷にすることも強い希望であった。

海上勤務のつれづれに集められた 海外の珍しい品々を飾るための戸棚を特に注文されたのでこれは階段室と居間との間仕切を兼ねて置かれることになった。

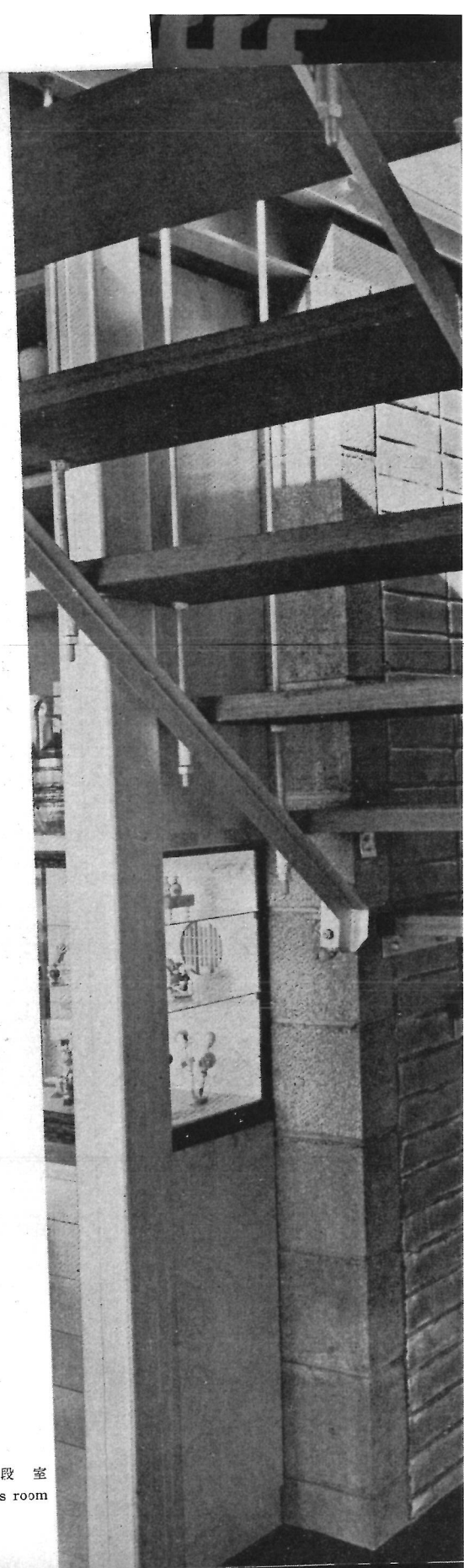
この建物の平面は 敷地が西向の斜面の中腹にあるので 西側の眺めが大変良い。そこで この西側の眺めと南の日とを充分に取入れるために 殆んど南西は硝子の壁になっている。西日が心配だったが 真西の位置に低い丘と竹林があるので遮断出来る見込みがだったので思い切り開け放してある。

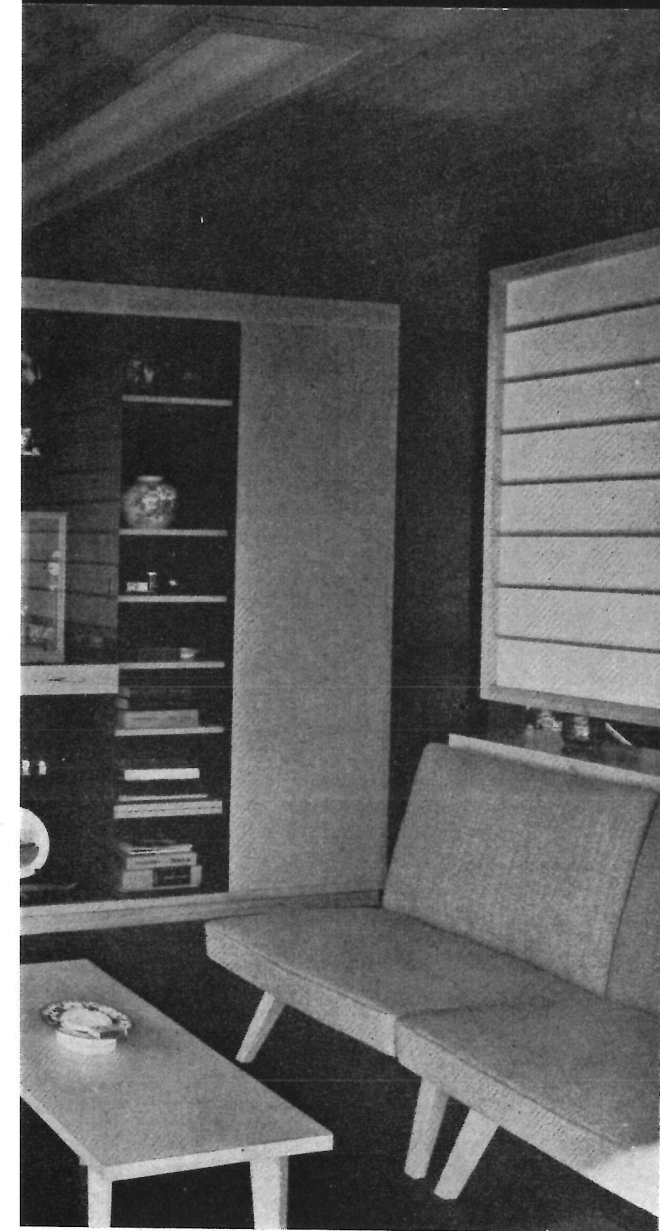
居間の飾り戸棚から奥は 2階を含めて家族の生活の場所として気楽に使えるように計画されている。2階は寝室として使われることを考えて 浴室と便所の入

口の脇に階段を設け 階段は2階室の中央え上るようになっていいる。

防銹塗料として従来からの経験上アルペーストの銀色のものが良いので この建物の鉄部は全て銀色に塗られている。したがって 他の色もこの銀色を基にして選ばれることになった。カーテンはエンジ 天井は濃いオイルステイン 床は黒 ところどころに濃いブルーと明るい緑灰色が使われている。

階段室
stairs room



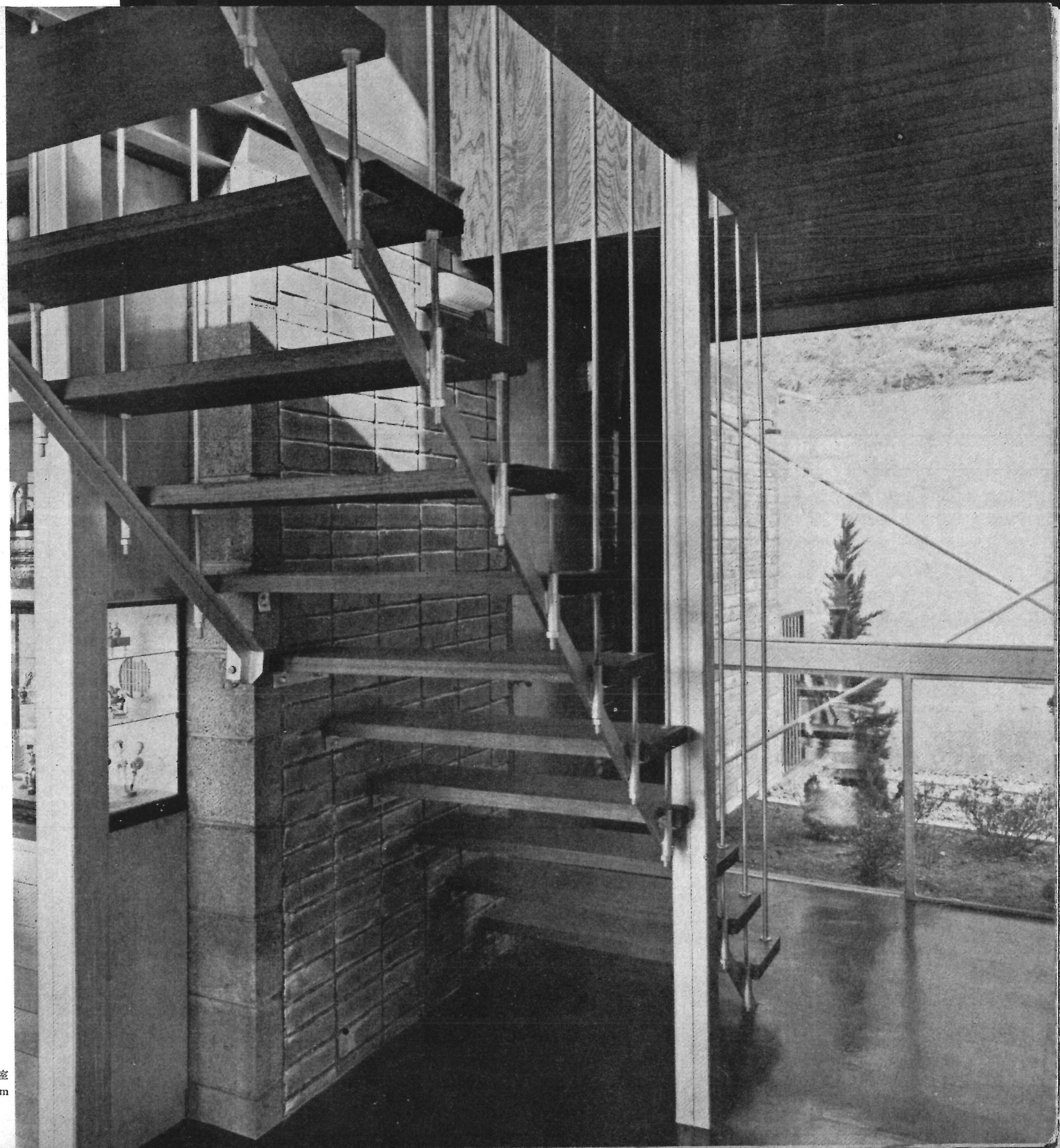


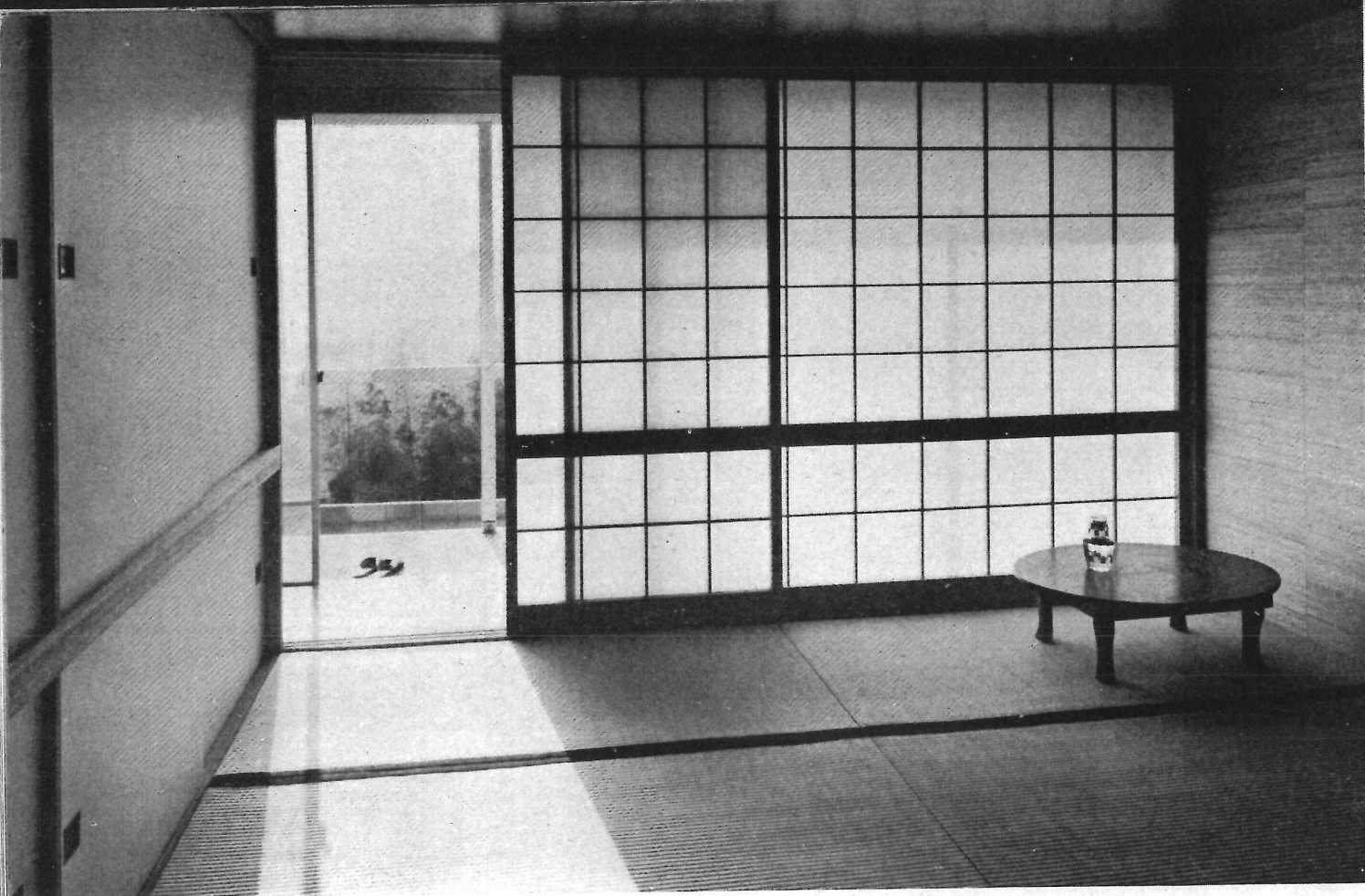
階段室 右側の障子の裏は玄関。

るの
 眺め
 は硝
 の位
 つい
 活の
 2階
 の入

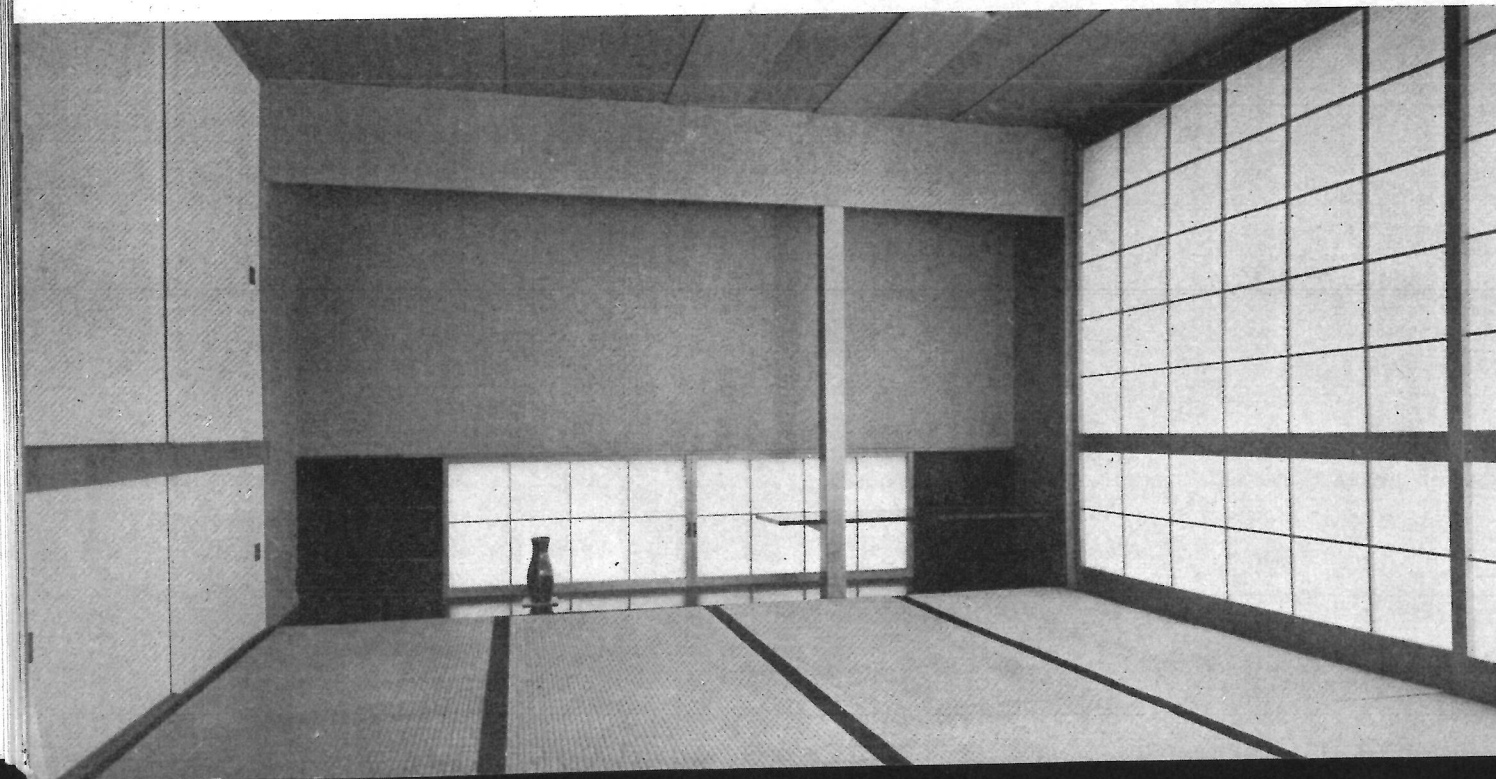
口の脇に階段を設け 階段は2階室の中央え上るよう
 になつている。
 防銹塗料として従来からの経験上アルペーストの銀色
 のものが良いので この建物の鉄部は全て銀色に塗ら
 れている。したがつて 他の色もこの銀色を基にして
 選ばれることになつた。カーテンはエンジ 天井は濃
 いオイルステイン 床は黒 ところどころに濃いブル
 ーと明るい緑灰色が使われている。

階 段 室
 stairs room



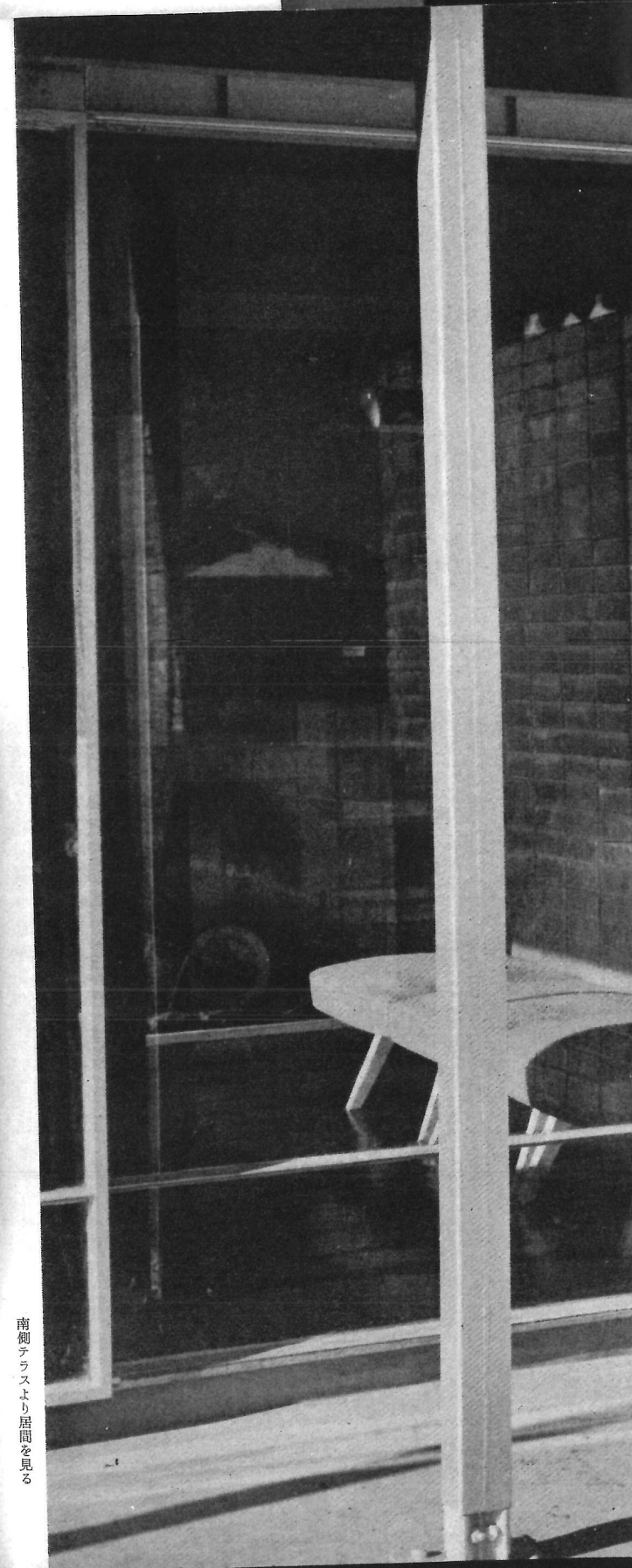


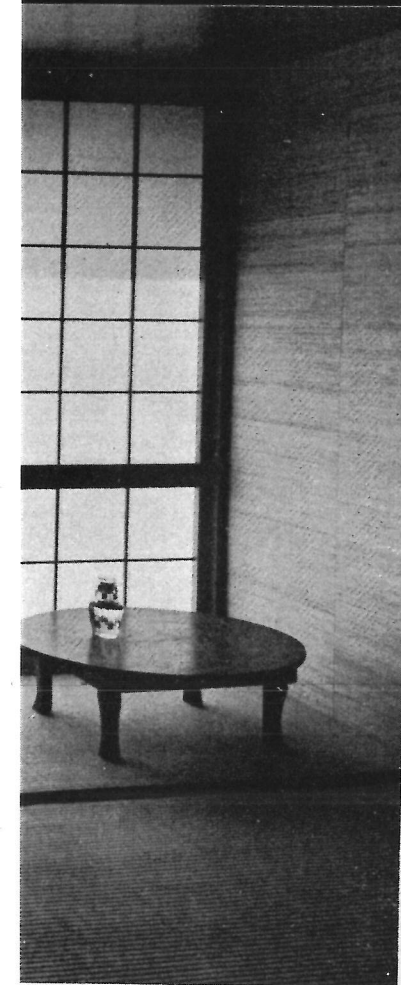
2階北側の8帖 Tatami room
view from North side on
2nd floor 天井 銀紙貼り 壁
葛布貼り 左側の障子は大きく全開
口の2/3開けられ 西側の眺望を充
分楽しめる。



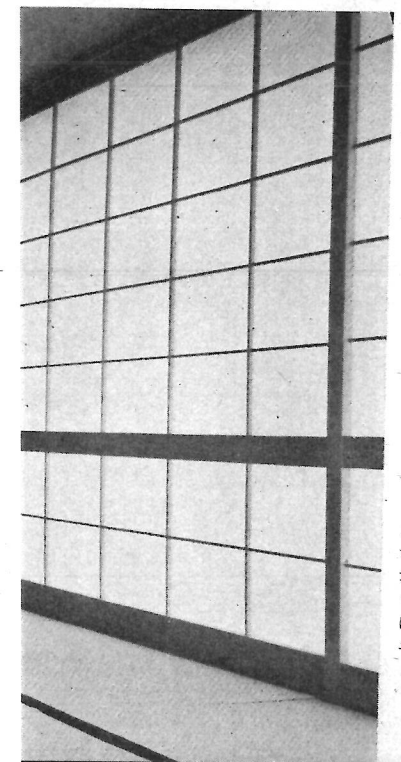
2階南側の8帖 Tatami room
view from south side on 2nd
floor 天井 杉大和貼り 壁 ヘ
ツシヤンクロス貼 床の間の腰壁
は赤色オイルペンキ 床板 カシ
ユ-塗 床柱 横クイヤラツカー

南側テラスより居間を見る





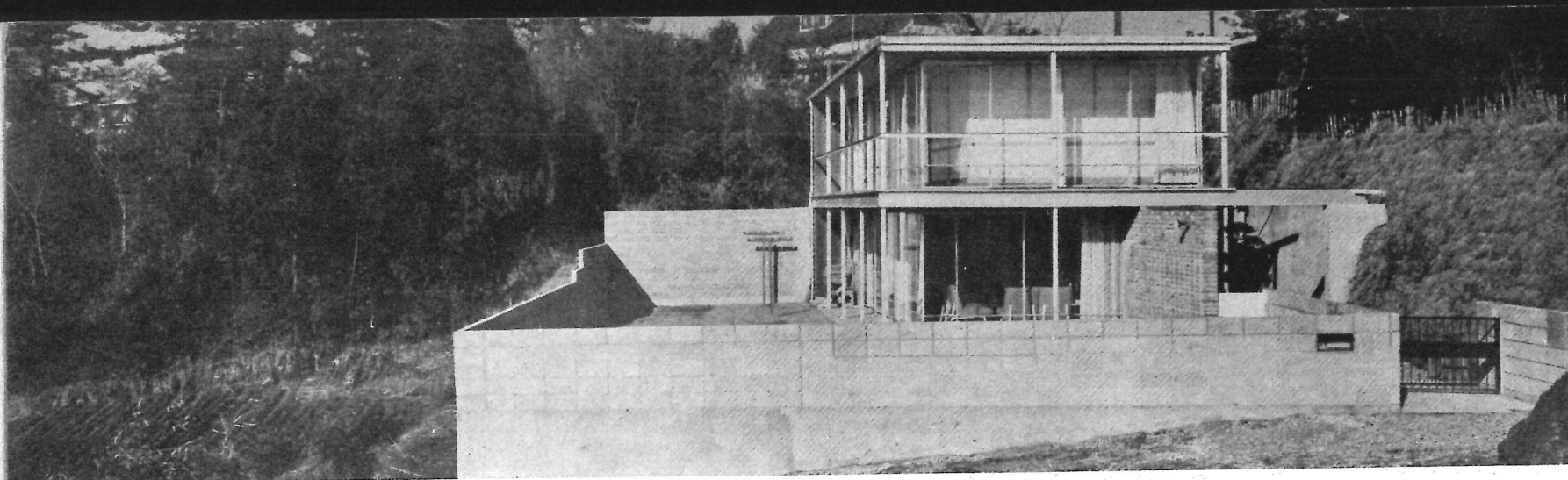
2階北側の8帖 Tatami room
view from North side on
2nd floor 天井 銀紙貼り 壁
葛布貼り 左側の障子は大きく全開
口の2/3開けられ 西側の眺望を充
分楽しめる。



2階南側の8帖 Tatami room
view from south side on 2nd
floor 天井 杉大和貼り 壁 ヘ
ツシヤンクロス貼 床の間の腰壁
は赤色オイルペンキ 床板 カシ
ユー塗 床柱 横クリヤーラツカー

南側テラスより居間を見る





南西側外観 S.W side view

単純工程と可変性

広瀬 録二

鉄骨住宅が計画された最初から 基本的な工法として単純工程ということを目指してきた。

この単純工程というのは 乾式工法を一步前進させた構造を目的にしている 例えば 湿式では 木摺漆喰塗りの場合 間柱を立て木摺を貼り 下塗り中塗り上塗り現場の工程を5回以上も重ねているし 外壁ではこれが10回位にもなるのが普通である。さらに湿式ではその間に乾燥期間を見なければならぬので 工程数ばかりでなく 工事期間も長く必要になる 現場の工事期間が長く 工程が複雑になるとそれだけ材料や手間の無駄も多くなり 実質では不経済な建物を作る結果になる。

これに対して乾式工法は 合板やボード数の工場で造られた製品が主になるので 工期は短く 工程も単純になる——2~3工程——ので湿式よりは経済的に有利ではあるけれども現在の工法では 現場に持込まれた材料を取付ける場所に合わせて切断したり削ったりしている。それでも 材料が木や紙が主原料のボード類なら割合楽に出来るけれども これが 石綿やセメントを主材にした不燃材 耐火材ということになるとなかなか大変なことになる。こうなると 乾式必ずしも経済的とはいえないことにもなるが 工業製品のボード類は狂いが少いし 仕上が均質で 破損した場合の取替えが部分的に簡単に出来るなどの利点が多いので 現場の加工を出来るだけ 少なくする方法を考えれば 湿式より有利なことの方が多い。

そこで 工場で製作される製品の精度と現場の寸法の精度を上げて適当な逃げを考えれば 理想的には 現場の

作業から加工という面倒で手間の掛る工程がなくなり 取付とか組立だけということになる。これをさらに進めると 原材料がどんなもので出来ていても現場の作業には影響がなく 唯一回の工程で屋根も壁も出来る工場生産建築を可能にするのであつて この目的に近づこうとするための基本的な考えかたが工程の単純化ということになる。

この単純工程の理想に達するためには 個々の材料は工場で生産され 完成品として現場に運ばれるから現在でもあまり問題はないとして 現場での寸法精度が最も大きな障害になる。

建築の工事の常識として 仕上は全て現場の寸法に合わせるものとされているので 現場で作られるものの寸法精度は極めて悪い。これは 悪いのが当然で どんな製品でも手加工では高い精度は求められないのである。

したがって 現場の精度を高くするためには 主要な部分を工場製作にしなければならないことになる。

鉄骨造が 乾式工法による工場生産建築を理想にしているのはこうした理由からであつて 木構造では狂いや収縮のために守り憎い精度も 鉄骨では 工場加工が原則であつて精度を守り易い条件にあるので こうした目的を実現させるのに最も近道だと考えたからである。

単純工程の理想はパネル工法の活用にあることはいうまでもない。差し当りの方法として壁をパネルにすることが比較的容易に出来るので 前掲の二作も特別な目的のあるところを除いて壁は全てパネルになっている。

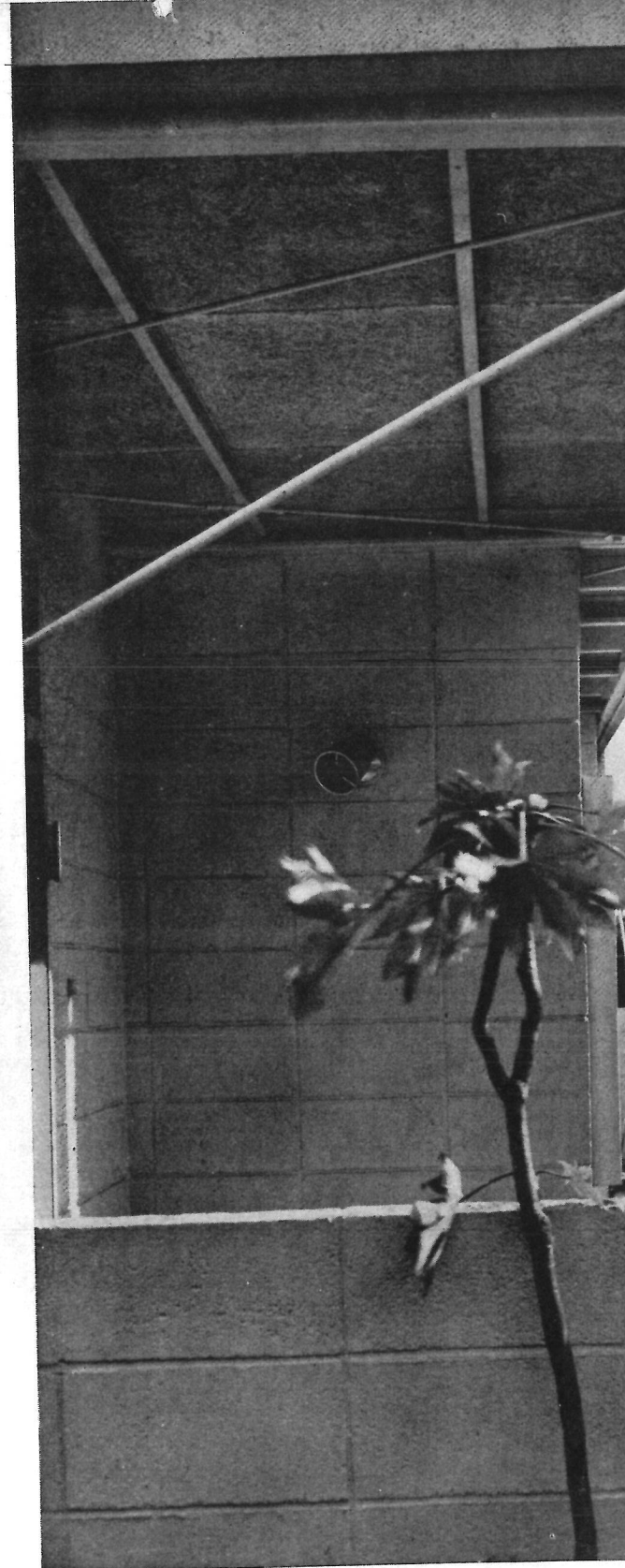
壁をパネルにすることによつて 必要に応じて それぞれの機能に合った構造のものを得ることが可能で 例えば不燃にするとか 断熱性が必要とか 遮音のためとか あるいは透明で外が見えるなどを 工場で厳格なテストをしたものを安心して使えるし 取付取外しが簡単に出来るようにしておけば 増築や改築も無駄な費用が掛らずに出来るので 一部屋増すために旧家の材料の大半を亡うということもなくなるのである。

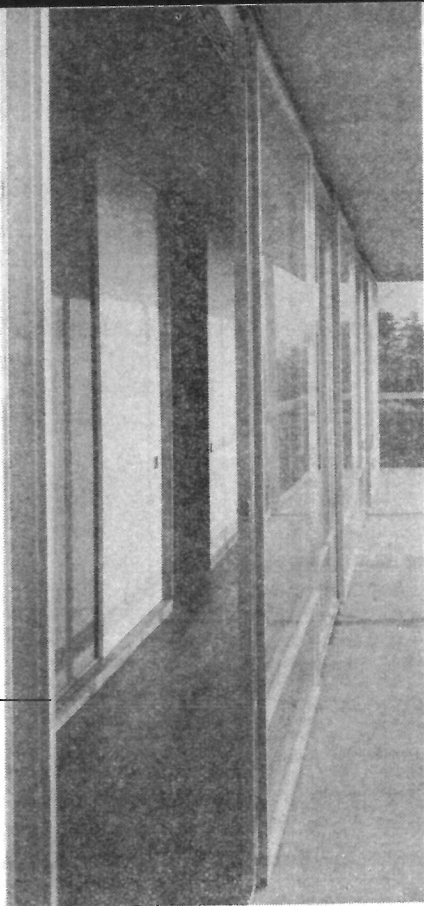
単純工程を目的としたパネル工法は こうした建築の plan にも可変性を持たせることが出来るという点で優れた性能を持っている。本誌の碧水荘病院もその長所を利用して 内部の各病室の間仕切りは全て合板によるパネルの嵌込みになっている。これは 病人が 個室を必要とするときは簡単に仕切つて部屋を作れるし 又多人数を大部屋で収容する必要がある場合には 取払ふことも出来るという 非常に弾力性に富んだ空間の利用を可能にしている。

また SH-27 では 外壁はもちろん2階の和室の壁もパネルを使つて 紙及び布貼りで仕上であるので さらに多くの部屋が必要な場合は壁を全部取除いて 鉄骨構造と屋根天井床のみを残した裸の姿にすることが簡単に出来るため 再び白紙から planing 出来るように設計されている。そのためにはずしたパネルを別の位置にそのまま使えるように 床と天井は平らに平行に造られている。

このように 建物の可変性を可能にするために 二作とも 柱は仕上の壁とは切離されて独立して立っているが出来るだけ大きい空間が利用出来るように全部外に出してある。この構造柱を外に出したのにはもう一つの理由があつて 鉄材の錆を容易に発見出来 また修理が簡単に出来ることも同時に考えている。

鉄骨造の防食法については 紙数がないので詳細に述べることは出来ないが 従来のように防錆塗料や良くてもメッキ処理だけに頼ることは危険であつて むしろ 防食設計法とでも云う設計の当初から 錆びない構造や 錆びない構法を研究しておくことが重要である。建物は出来上つてからでは どうにもならない場所が多く出来るのであつて このようなところは どんな防錆処理をしておいても一反錆び始めたら手のほどしようがないし 他がどんなに完全でも構造架構の一部にでもそんな箇所があればその建物の寿命はそこで決まることになるので 十分な注意が必要である。





← S H - 2 7
広瀬録二設計

鋼製建具

サッシュドアー
ホーディングドアー
スチールシャッター
設計・製作

福岡工業株式会社

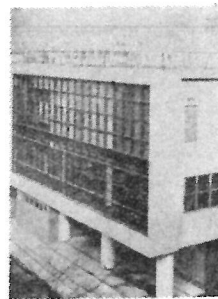
東京都葛飾区本田立石町67・電(69)5294

スチール
サッシュドアーシャッター
オペレーター
田中サッシュ工業株式会社

本社及第一工場 横浜市南区二葉町1の1 電話港局 ⑧7221~2 7251



スチールシャッター
ドアー サッシ



永田町会館

東京シャッター製作所

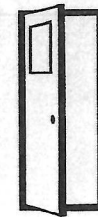
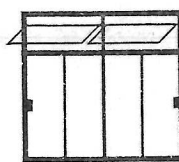
本社 東京都中央区湊町3~2 電話(55)1735
工場 東京都江東区亀戸9~120 電話(68)5804

サッシュドアー

日本サッシュ合資会社

代表者 北條貞蔵

本社 東京都千代田区神田旅籠町3~9 電話(25)1434・1435・3751・9859
工場 東京都葛飾区青戸町1~102 電話(69)1011・3878
大阪出張所 大阪市西区江戸堀北通1~18小谷ビル 電話(44)1709



三機工業・鋼製建具
レディメイド・サッシュドアー
鈴木式シャッター 指定代理店

東洋スチール工業株式会社

本社 東京都大田区東六郷1の32電話蒲田(73)6731・9690
出張所 宮城県仙台市小田原泉町13 電話(2)0604

新耐火ボード「セラボード」



実験開始15分後の現状

最近 各種の新建築資材が発売され 新建材ブームをつくっている。ところが これら新建築資材を詳細に検討し また 実際使用起来と失望させられることも少なくない。これは その新建材の宣伝をそのままのみにした結果といえよう。従つて 新建材を使用する際

は厳密な各種試験で使用出来ること ということに「セラボード」は三井耐 技術陣の永年の 発表された製品 「特許セラボー 材として使用さ 更に高度の耐火 次に「特許セラ 1. 耐火防火性 火災時に焼け 木枠と火陥と 長時間にわた 隣室に抜け出 下より数倍の 2. 耐水性 耐水性は極 頭の部分が注 することが 3. 伸縮性 無機質材で 4. その他防 吸音防音

ダイケン インシュレーションボード

スタンフォード大学の調査によれば アメリカの一般住宅は1940年頃から漸次低層化し 1975年頃には殆んどフラットに近いものになるといわれる。ところで この家屋の変化は当然家屋の断熱性の問題を生じてくる。この断熱性とは屋根のみならず 壁にも床にも大きく要求されるわけで このためには 断熱性 吸音性 耐湿性を兼ねた材料が必要となつてくる。日本でもこの事は例外でなく 高層建築に 一般住宅に 建物の軽量化をともなつて そうした材料が要求されるのである。以上の傾向がインシュレーションボードを産み出す緒口を与えた。これを有効に用いれば乾式構造の壁体 天井等は夏冬共に快適な居住感が得られ 又騒音からも解放され 暖・冷房の費用もかなり節約できることになる。ダイケン・インシュレーション・ボードの一般的特長を挙げれば 次のようになる。

1. 比重0.4以下の一枚板から出来たもの 又数枚貼合させた積層板 アスファルトを含浸又は塗布したもの等があるが その利用は 構造材料 断熱保温 隔壁材料 吸音材料 室内装飾材料等多方面にわたつている。
2. インシュレーション・ボードは微少な空隙を有するため 優れた断熱性能があり 熱伝導率は0.046

(kcal/m²h) 冷房費節 露の防止 製品自体 非常に高 4. 室内壁に 居住感さ うなこ 5. 製造工程 建築 6. 又各種 度の耐 したも できる 7. 表面に ては良 かなり 以上の諸特 ついて説明 吸音係数と の通りであ コンク ガラス 木材生 金属・ インシ (開放